

ものがたりライブの会場での下見の話の続き。

照明、音響、温度と見てきて、次に会場の時計の位置も頭に入れておく。

まずステージに立ったら、主催者との約束の終了時間を守るのは大原則。

でないと参加者に迷惑がかかる可能性がある。

学校の場合はチャイムが鳴って休み時間にくいこんだら、子どもたちの

テンションがさがる。

だから、ぼくはいつも、後半になったら残り時間を確認して

「あと何分だから、もう次にこの話はできない。こっちの話をすることにしよう」と

いう算段をしている。

問題はその「あと何分だろう？」と残り時間を確認する方法だ。

腕時計を見るのはいやだ。

語り手がそのしぐさをするだけで、聞き手は現実に戻ってしまう。

それに昔話をするときに、腕時計のような近代の産物を身につけておくのはいただけない。

とくに、ぼくは身振り手振りをたっぶり使うので、なおさら腕が目立つ。

そこで腕時計はステージに立つ前にはずしてしまう。

だから会場内の時計を聞き手に気付かれないようにさりげなく見たい。

そこで、始まる前に時計の位置を頭に入れておきたいのだ。

ところか体育館の時計はたいてい、つごうのいい位置にはない。

前方のステージの横の壁の上の方についていることが多い。

つまり聞き手から見えるが語り手からは見えない場所だ。

なぜ、そういうことになっているのだろうか？と、いつも思う。

おそらく、学校の体育館の設計はどこも似たようなものだから

あまり深く考えずに慣例で前に時計をつけているのだろうと思う。

だが、時計を必要とするのはステージプログラムを進行させている側で、

聞いている子どもたちは時間がわかったところでどうしようもないはずだ。

これはふだんの朝礼や式典でもそうだろう。

来賓の挨拶を聞きながら(トイレに行きたい。あと、どれくらいだろう?)と

見るくらいしか、子どもたちには時計の使い道はない。

時計は演者から見えるように客席後方にあるのが望ましい。

すると演者はまっすぐ客を見るついでに時計を見て、残り時間を確認することができる。

現に客席の時計などはそうになっている。

逆にお客の側からは、時計は視界の外にある方が、よけいなことを考えずに

ステージにのめりこめるので具合がいいのだ。

劇場やコンサートホールでステージ側に時計があるのは見たことがない。

だが、現実には体育館の時計はたいてい前方についている。

ではどうするか？

「今だけその時計をはずしてくれ」と言うのは大ごとだし、

布で隠してもらったら、かえって目立って変かもしれない。

だから、そういうときはそろそろ終わりが近いかなというあたりで、逆にどうどうとふりかえって時計を見るようにしている。

で一言。「あ、あと〇分ある！ よし、もうひとつできるぞ。じゃ、今日は特別にふだんはしないおもしろい話をするよ」。

とニコニコしながら言うと、お得感も出るし、みんな期待をもって次の話を聞いてくれる。

下見の話をまとめる。

下見は絶対必要だから、会場には早めに行く。

下見をしないで、いきなり会場に入ると

演壇があったり、机があってペットボトルが置いてあったり、

後ろの壁がギンギラギンに飾りつけてあったり、

ものがたりの話りのスタイルを知らない担当者の想像で

さまざまなデコレーションがされていることが多い。

もちろん、良かれと思ってやってくれているのだが、それを大勢のお客がいる前で移動してもらったりするのはいかにも手際の悪さを見せるようでいいものではない。